

平成21年11月



NO.079

FAS 住まい新聞

発行責任者
榎地建築

北斗市中野通 324
Tel 0138-73-5558
fax 0138-73-8460

～ 心豊かな家づくりとは ～

◇ 熾烈な食い合い競争で残るのは ◇

大型店舗が次々と閉鎖され、不況風が吹き捲っていますが、大型店舗の閉鎖は果たして不況が要因なのでしょう。人口が増え続けている時代は、毎年3%の経済成長を果たしていました。人口が増えると必然的に消費が増えるので経済成長は自然現象だとも言えるのでしょう。逆に人口減少では経済状況が下降線を辿るのもこれまた自然現象です。二十年ほど前に自由主義経済を標榜して、大型店舗が自由に开店出来るような「大店法」が施行されました。

そこから郊外型大型店舗が次々と开店され、その蹴寄せで従来の商店街は、人通りの無いシャッター通りへと変貌して行った事は誰もが承知の事でしょう。

店舗をたくさん創っても生活者の数は多くなる訳ではありません。売るキャパも買うキャパも同じなら単に食い合い競争なのです。

これは私達の住宅産業にも当て嵌まります。戸建住宅の着工数は年間50万棟程度なのです。現在の工務店数はハウスメーカーも含め50万社在ると言われ数の上では1社1棟になりますが、ハウスメーカー1社で1万棟も受注するので、技術と情報の持たない地域の零細工務店は次々と淘汰されて行く事もまた必然なのです。

そのハウスメーカーの看板の下で実際に施工を行っているのは、淘汰されつつある職人を抱えた零細工務店そのものなのです。現在の社会動向を見ると、ブランド力や情報量で、ただ売だけのハウスメーカーを存続させるため、現場で家づくりの実務を担う地域工務店を潰してしまう結果になり兼ねません。

人の営みが在る限り家づくりに関する仕事はなくなる事はありません。また誰が受注しても年間の建築数も変わりません。しかし、明確に言える事は、受注競争で生残るのは、現場の実務を担う地域密着の工務店でなければなりません。

◇ 地域の工務店に建主を幸せに出来る知恵と情報 ◇

然るに地域密着の工務店が、ハウスメーカー並の知恵と情報を持っているかと言うと疑わしい限りです。毎年のように建築関連の法制度が次々と変更されます。この度の小規模工務店のみに交付される100万円補助金が支給される「長期優良住宅普及促進事業」に業者登録した工務店数は、対象数約25万社に対し、僅か7000社余りでした。

中小工務店の勉強不足と意識低下と指摘されても致し方ない実状なのです。

しかしながら、地域に密着する工務店の中には、来るべき時代に見合った家づくりを真剣に取り組んでいる経営者も存在致します。

確かに長期優良住宅とは、無駄で過剰な仕様を強要している部分も無いとは言えません。100年寿命の高耐久構造、冷暖房費用を半減させる次世代省エネ性能は当然の仕様と言えますが、耐震構造仕様などは、その仕様規準や申請書類などの簡素化などを早急に行うべきです。そこに掛かる手間などの労力は、全て有形無形で建主さんの負担となるのが現実です。

◇ 家づくりにも友愛が ◇

鳩山政権の目指す政治理念は「友愛」だと言う事です。常に関わる人々に愛を手向け、友人として永劫の人間関係を保持しようとの精神なのでしょう。

私達の基本理念は「住む人と幸せを分かち合う家づくり」です。建主さんの一生一代の家づくりと言う大事業に関わる喜びに感謝し、建主さんが生涯、幸せに暮らせる住まい空間を提供してその喜びを共有し、合わせてその家づくりに関る、協力業者、販売代理店、資材メーカーなども、建主さんと一緒にその幸せ(利益)を分かち合おうと言う意味が込められています。

都会でも田舎など、どんな、地域に在っても人々の営みがあり、その繋がりが連携しあって地域社会が形成されているのでしょう。

特に家づくりとなると、基礎、大工、左官、建具、サッシ、配管、電気、屋根、内装などと、約30業種もの業者に人、モノ、金が行き渡ります。まさに地域の工務店が頑張れば、新政権が掲げる地域経済の活性化に寄与する事になるでしょう。幸せを分かち合う、心の豊かさがあれば、経済の豊かさは後から必ずついて来るものです。

(著・福地脩悦)

幸太の知恵袋

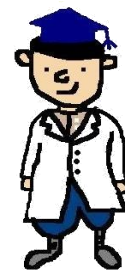
柿は二日酔いの特効薬

二日酔い、辛そうだねえ。

二日酔いには柿が良く効くっていうよ。生の柿でも、干し柿でも、とにかくお酒を飲む前に食べれば二日酔いにならなくてすむそうだよ。

蜂蜜とか、ブドウ糖を含んだ食べ物でもいいっていうけど、柿が一番いいらしいねえ。

それでもね、飲み過ぎには注意するんだよ。



建築情報や知識は、ファース本部のオフィシャルサイトで!

ファースの家

検索